

## 第 29 回 公開講演会 2023 年 5 月 14 日（日）

講師 江戸川大学社会学部専任講師、(公社)日本環境教育フォーラム客員上席研究員 佐藤 秀樹

演題 バングラデシュからみる SDGs 時代の環境・農業問題と国際協力

恒例の大会が主催する公開講演会が、浦安市国際センター研修室を会場にして開催されました。JICA 東京、浦安市国際センターから共催、千葉県と浦安市から後援の協力をいただきました。

講師は、JICA 青年海外協力隊の野菜栽培隊員としてエクアドルに派遣されたのを皮切りに、農業・農村開発コンサルタント会社や環境 NGO にて開発途上国の住民を対象とした持続可能な地域づくりへ向けた活動を実施してきました。現在は、江戸川大学社会学部の環境学を担当する教員として、海外事業経験を取入れた授業を展開しています。講演では、10 年以上に渡って継続実践しているバングラデシュでの環境保全と生計向上を図る取組みの成果・教訓等から、開発途上地域における市民レベルにおいて必要な SDGs の取組みやその課題解決に不可欠な国際協力の方向性について、次の 4 分野に分けて詳細に紹介されました。

1. バングラデシュの概要と課題
2. 地域での活動から見るバングラデシュの環境・農業問題
3. バングラデシュの環境・農業問題解決へ向けた地域での活動、成果と SDGs 目標達成との関わり
4. 今後の課題と活動の方向性



写真奥左から、中西コーディネータ、佐藤講師、三輪会長、全参加者 34 名

### 1. バングラデシュの概要と課題

#### ● バングラデシュの概要

バングラデシュはパキスタンから 1971 年に独立して建国、宗教はイスラム教 88.4%であり、公用語はベンガル語であること、北海道の 2 倍程の大きさの国土に人口 1 億 6,630 万人も住んでいること、産業は農業、衣料品・縫製品産業が主であることが紹介されました。また、ムハマド・ユヌス氏が無担保の少

額資金を貸し出すグラミン銀行を創設し、経済的に貧しい人たちが自立していくための基盤を構築したとして、2006 年ノーベル平和賞を受賞しました。

- バングラデシュにおける最近の経済開発プロジェクト

The Dhaka Metro Rail、The Padma Bridge、The Karnaphuli Tunnel、The Payra Sea Port、The Payra Power Plant

- バングラデシュの経済・社会問題

2013 年 4 月 24 日 「ラナプラザの悲劇」、2016 年 7 月 1 日 「飲食店テロ事件」、ロヒンギャ難民問題が紹介されました。

- バングラデシュから見る SDGs17 目標との関わり

17 目標との関わりが具体的に説明されましたが、長いので、分野 3.の所でまとめて報告します。また、分野 2.はバングラデシュの環境・農業問題であり、分野 1 と連続するので、続けて報告します。

- 地球規模系の環境問題

バングラデシュはモンスーン地帯であるため、気候変動が主因と考えられるサイクロン等の自然災害が多発する。その例がサイクロン(Amphphan) 2020 年 5 月である。また、レンガ製造工場は重要な製造業であるが、そこから排出される煤煙等による大気汚染の問題が発生している。

- 生活系の環境問題

生活排水やごみ処理の課題が大きい。

- 自然系や農業系での環境問題（シュンドルボン周辺部で暮らす地域の主な課題）

シュンドルボンは世界最大のマングローブ天然林であり、総面積 100 万 ha の大森林地帯である。このうち 62%がバングラデシュ側、残りはインドに存在する。1992 年にラムサール条約登録地、1997 年に世界遺産（自然遺産）に登録された。この周辺部で暮らす地域の人々は、マングローブ林や生物多様性の恩恵を受けながら、自然と共生した営みが行われている。

### 3. バングラデシュの環境・農業問題解決へ向けた地域での活動成果と SDGs 目標達成との関わり

第 3.項目の活動成果について、SDGs 目標との関連を含め、次に年代順に抜粋して紹介します。

- 2013 年 1 月～2018 年 12 月（6 年間）：自然環境保全「SDGs 4, 15」
- 2014 年 4 月～2017 年 3 月（3 年間）：漁師を対象とした家庭菜園、改良かまど導入等「SDGs 2, 7」
- 2014 年 4 月～現在：地域住民参加型によるマングローブや地域固有種等の植林「SDGs 11, 13, 15」
- 2015 年 4 月～2017 年 3 月（2 年間）：イルカ・カメ等を含む流域保全普及啓発活動「SDGs 4, 14, 15」
- 2015 年 10 月～2018 年 9 月（3 年間）：ウェイスト・ピッカー（ごみ拾い人）労働・生活支援活動「SDGs 1, 3, 4, 5, 8, 10, 11, 12」
- 2016 年 10 月～2019 年 3 月（3 年間）：天然はちみつやマングローブピクルス等の非木



講演中の佐藤 秀樹 講師

材林産物の商品開発「SDGs 1, 2, 5, 8, 15, 17」

- 2016 年 10 月～現在：支援ネットワークの構築「SDGs 17」
- 2017 年 4 月～2019 年 3 月（2 年間）：地域住民によるエコツーリズム開発「SDGs 1, 8, 15, 17」
- 2019 年 4 月～2022 年 3 月（3 年間）：在来作物種子の採取・保存・利用「SDGs 2, 4, 5, 15, 17」
- 2019 年 4 月～2022 年 3 月（3 年間）：クルナ市における都市の自然環境保全の取り組み「SDGs 4, 11, 15, 17」
- 2020 年 2 月～2023 年 3 月（約 3 年間）：シュンドルボン地域周辺農村部における農畜林水産物の 6 次産業化「SDGs 1, 2, 5, 8, 11, 14, 15, 17」
- 2023 年 5 月～※3 年間の予定で実施：ジョジョール県の零細ヤシ砂糖生産者と花卉農家の 6 次産業化を通じた生計向上「SDGs 1, 2, 5, 8, 11, 15, 17」

以上のように、多彩な長期にわたる活動成果が得られています。JICA 海外協力隊の場合は任期が原則 2 年なので長期の成果に結びつけることが難しい課題があります。当会にとっても、大学や NPO 活動と連携して日本らしい開発途上国支援に取り組む重要性を自覚させられた講演でした。

### 質疑応答

**コーディネータ：**バングラデシュは SDGs の 17 の目標の全部が引っ掛かってくるような問題を抱えていて、やることが沢山あります。ネットワーク化しないと成果が分散してしまうこともある、この辺も指摘されたので、その辺も踏まえて皆さんのご意見をぜひお聞かせいただきたいと思います。

**質問：**どうして経済発展ができなかったのか、これを解決するには根本から変えなどできないとか、そういう意味で問題は何かと言う点が抜けているのではないかと思ったんです。

**講師：**それに焦点を当てるのは難しい。やはり SDGs の 17 の目標を見据えてセッティングしていく以外にないかなと。総合的に見ると、私達の部分は微々たる活動ですし、効果を見せるためには、国や全体としてどうなのか、連携や共同の視点でやらないと環境が良くなるとか経済発展も見えないと思います。私がやれるのは草の根の活動なので、国全体となると私の範囲では及ばなくなります。

**質問：**20 年とか 30 年前、バングラデシュでは天然の地下水のヒ素の問題があった。日本の NGO なんかも随分行ったんです。それはその後どうなっていますか。

**講師：**自然的に発生する要因でヒ素の問題を抱えているケースが多い、それを支援するための活動は 20 年経った今でも引き続き NGO を中心に進められていると聞きます。水の問題は深刻で、飲み水を確保することは難しいと思う、塩水が出ることも含めて、飲み水の確保の問題は大きいと思います。



コーディネータ司会による質疑応答の時間、写真左にもう 1 列の机あり

**質問：**マングローブの植林の話がありましたね、私どもが一般的に考えると、泥の中に木を植えることの必要性は理解するんですが、実際問題として泥の中に木を植えると根が地下につながらない。

**講師：**こちらでは泥の中にマングローブの枝の一部をさしこむ方法でやっている、確かに活着率が悪いこともあります、枯れたりもする。管理とか補植をしないとマングローブも育たないので維持管理が重要になって来ると思います。

**質問：**ロヒンギャという人達がそちらに行って支援を受けていると言うことですが、よくわからないというか理解できない、ビルマから追い出されて、なぜ支援するんですか。

**講師：**支援するのは、難民が押し寄せた時なので、毛布とかその人達が暮らすための資材が不足していたということで、私たちの現地 NGO が考えて独自に支援したものです。

**質問：**ロヒンギャはイスラム教徒ですね。

**講師：**イスラム教徒の少数民族ですね、ミャンマーから逃げてきた。

**質問：**どうして追い出されたんですか。

**講師：**ミャンマーの少数民族に対して村を焼き払ったり、差別偏見を助長してきた。要因としては、村に住めなくなると命からがら同じ宗教のこちらに逃げてきたと言えると思います。

**コーディネータ：**世界的な宗教問題の一つで、ミャンマーと言う仏教国の中で、どうしても多数民族からの差別がある。それに対して、自己防衛的に同じ宗教を持っているバングラデシュに逃げたと言うことがあると思いますね。

**講師：**そうですね、そこしか選択の余地もなかったのだと思います。この支援の様子は私たちの NGO が行っていることで、もちろん国連とか他の組織もたくさん支援している中での 1 つと理解していただければいいかと思います。

**コーディネータ：**今日は、いろいろな問題を抱えている国バングラデシュという良い教材を与えていただいて、それに基づいていろんな問題点をご説明いただいて大変ありがとうございます。バングラデシュは、環境的にモンスーン地帯、海拔 0 メートル地帯だし、非常に厳しい環境でいろんな問題が凝縮している地域で、やることが多すぎると思います。先進国のグローバルな気候変動の問題など個々の問題を適用しようとしても、一方で彼らの生活の問題あり衝突することがある。NPO としての支援は、それはそれで大変立派ですが、これには強力なリーダーシップが必要でしょう。一方ではインフラの問題があります。これは NGO では手が付けられない。生活の問題は NGO がいろんな形で行える、ある程度ネットワーク化してやらないと難しいと思うので、援助の問題、グローバルな課題に対する対応の問題など大変示唆に富むお話をいただいてありがとうございます。

**講師：**きょうは SDGs に焦点を当てたものですから、幅広く見てもらったら良いかなと思って、いろんな事を紹介しました、問題を絞って、例えば蜂蜜なら蜂蜜に絞ってやるということも考えられたんですが、17 個の目標を考えずに特定の目標だけ考えても SDGs の時代とは言えない。そこで、もしかしたら混乱を招いていることもあったかも知れませんがご容赦いただければと思います。ありがとうございました。

(報告者：高瀬)